

命を救う早期発見 ～乳がんを経験して～

がん対策推進企業アクション 認定講師

大西 幸子

プロフィール

名前	大西 幸子
出身地	京都
勤務経歴	一般財団法人京都工場保健会 20歳 入職 35歳 札幌転居に伴い退職 42歳 京都転居 パートタイムで再入職 現在は、嘱託職員にて勤務

がんの経緯

47歳 乳がん罹患

右胸全摘出

ホルモン治療

52歳 ホルモン治療終了

PET-CT検査で再発、転移なしと確認

現在は、半年ごとの経過観察中

がんのイメージ

- ・ 完治しない病気
- ・ 再発、転移がある病気
- ・ 死に直結する病気

なぜ、がんにならないと思ったのか

健康意識は高いほうだ
去年も健康診断を受けている
今まで大丈夫だった
自覚症状がない
まだ高齢者ではない



結局は、楽観視していた

健康診断で、精密検査になった

乳がん検診で、右乳房腫瘤の疑い

→それでも、まだ『がん』ではないと思っていた

結果

『乳がん』

タイプ 『浸潤性小葉がん』

特殊型で乳がん全体の約 5 %

右胸全摘出

乳房再建はできない

手術の結果

リンパ節の転移はなく、ステージ 1 だった

でも… 片胸を失くした

「幻肢」の症状がおこり、つらかった
女性として欠如しているかに思えた
温泉や、入浴施設に行けない
水着にもなれない
人前で着替えもできない

復職した

問題なく受け入れてもらえた
私も、明るく何でもないようにふるまった

でも、実は、つらい気持ちがあった
視線、興味本位、軽率な言動、無関心
人に『がん』になったと言いたくない
理解してもらえないしんどさ
誰にも『がん』になってつらいとは言えない

私は、どうして『がん』になったのか

「がんは運！？」

私は、運が悪かっただけ
それなら仕方がない

でも・・・
実は、運が良かった

どうして運が良かったのか

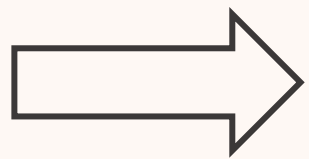
早期発見で『がん』を発見できた

- ・ もし、札幌時代の専業主婦の時だったら
- ・ もし、非正規雇用では、がん検診が受けられなかったら
- ・ もし、今回のがん検診を受けていなかったら

→ 早期で『乳がん』が見つけれなかった

『乳がん』になってわかったこと

死ぬ病気



治る病気

『がん』は早期発見で治る！
がん検診を受けること
それが、早期発見の手立て

お伝えしたいこと

がん検診の推進
受診への推奨

**従業員の方の健康管理、それは命を守ること
もし、がんに侵されていたら救えることになる**

最後に・・・

ご清聴ありがとうございました

大西 幸子